

おしめの回収を増やせないか

回収回数を増やすよう改善する



中山 美幸 議員

町長は、人、物に視点置いて平成30年度予算を編成したと、施政方針の中で述べている。その中で環境というメリットを活かしていくとも述べているが、平成29年度当初、そのリサイクルセンターが海外で操業開始し雇用も創出できると示しているが現状はどうか。

インドネシア政府の一時預かりとなっている

建設課長

インドネシアのデポック市で企業化する事で採択は受けているが、環境林業省で一時預かりとなっている。

子育て世代のおしめ回収を増やせ

中山議員

町長は平成28年12月の同僚議員への答弁で廃棄物諸費用が県平均より年間約1億円の財源が浮いていると、述べている。これは住民の労力奉仕であり、ゴミ分別に対する負の部分については触れていない。30年度方針では子育て分野に力を注ぐとしているが、幼児や家族介護の高齢者のおしめ回収を増加すべきである。

改善する

町長

おしめは一般ゴミとして一週間に1回の回収であるが、リサイクルできるまでは、一週間に2回にするなど担当課と協議して改善する。

小中学校のエアコン設置はいつか

中山議員

数年前の提案により、小中学校の図書室のエアコンを設置してもらった。町長は大規模改修と同時にエアコン設置をするとしている事から、公の学校の子どもたちは平等であるべきと考えているが、*カーボン対策によるエアコン設置はいつか。



エアコンが設置された図書室で学ぶ児童

平成31年4月に稼働する予定である

建設課長

事業の工期を含めスケジュール管理について、9月着工1月末完成を目指し4月1日をもって全校すべて稼働できる。

有害鳥獣対策委託料の使途を示せ

中山議員

農業水産業費の有害鳥獣関係予算675万円のうち349万5000円の使途について示せ。



箱わなで捕獲されたイノシシ

民間の有害鳥獣対策指導者を養成設置する

農林振興課長

これまで野方猟友会にサルに対する巡回を委託していたが、その効

果もありサルの被害は減少傾向であるが、イノシシの被害が増加している事から、有害鳥獣対策指導者を養成する。

有害鳥獣対策でエリア限定は改めるべき

中山議員

30年2月末の実績を見ると、イノシシの被害の増加がよくわかる。特に持留、黒石の住民の方々からは、野方猟友会と大崎猟友会のエリア限定境界上であり対応が薄い。また持留以南でのサルの出没があったが巡回も無い。この対策は住民のための対策であり、経費は一般会計からの支出であり不合理である。早急に改善されたい

両猟友会が話し合わなければならぬ

町長

猟友会は元々一本化でスタートしていた。エリア境界の対応についてジレンマは理解できる。何らかの解決策を講ずるべきとは感じている。両方

の猟友会が話し合わなければ前に進められない。エリア限定で捕獲指示を出している

農林振興課長

捕獲指示は両方の猟友会に限定の指示を出している。両方の猟友会が日頃からコミュニケーションを取りあっている状況では無く実態は難しい。

集落単位で捕獲チームを作れ

中山議員

集落もしくは隣接集落で対策チームを構築し町全域で協議会の構築を望む。

両猟友会とは別に取り組みを強化する

町長

自分たちの地域は自分たちで守る意識付けと共に、取り組みを強化する。

※カーボン・マネージメント強化事業とは

CO₂の排出削減に係る企画・実行・評価・改善のための体制整備に向けた調査検討、省エネルギー設備等の導入を支援する事業